

親子ふれあいとスペースボール大会 試合細則

2024年7月発行

多摩区少年野球連盟 事務局/審判部

1. トスペースボールにおけるボールデッドの取り決め

攻撃側(打者、走者)及び守備側の「全てのプレーが終了した時点」をボールデッドとし、試合を中断します。
単にボールが捕手に転送された時点ではありません。

2. ボールデッドの時機(=試合中のプレーの停止)について

① 走者がいない場合

打者走者をアウトにするか、打者走者が次に進塁する塁上または塁付近までにボールが返送され、野手がボールを確保したとき。もしくは打者走者が進塁をあきらめたと判断した時点。

注) 打者走者が走塁を継続している場合はプレーが続行される。

注) プレーが中断したと判断した時点後に、ボールが捕手または守備側への返球時に悪送球があった場合において、走者の進塁は認めない。

② 走者がいる場合

ボールが走者の進塁すべき塁、または進塁を防ぐ塁に返送され、かつ全ての走者が走塁を終えたと判断した時点。

③ 最終打者の場合

①および②のほか、野球でいうところの2死からの打者として扱い、打者または走者がアウトになった時点でプレーは終了し、攻守交代を行う。

注) ホースアウトの場合は得点は認めない。

但し、タグアウトの場合はその時点前に他の走者がホームベースに触れれば得点となる。

3. 注意事項

- 盗塁・バント・インフィールドフライは採用しない。盗塁・バントはアウトとなる。
- 大人の走者と子供の守備側選手との接触は、安全を図るため大人が回避行動をとる。
 - ボールを守備選手(子供)が捕球し、その後に走者(大人)が走りこんだ時、接触し落球した場合は走者「アウト」とする。
 - クロスプレイについては、通常タッグプレイ・フォースプレイ等として認められる範囲内にボールが送球・確保し、走者(大人)との接触で補給できなかった場合は走者「アウト」とする。
 - 送球されたボールが大きくそれ、タッグプレイ・フォースプレイ等と関係ないと判断した場合は、上記①②は適用しない。
 - 上記は、大人と子供の接触プレーを回避し、子供の安全を優先に決めたものであるが、危険プレーと審判員が認めた場合には、大人・子供に関係なく適用する。
- 2回終了時(決勝は3回終了時)に同点の場合、最終回に出場していた学童選手7名による抽選カード方式で抽選を行います。

4. その他

- 1) 大会の審判は出場チームから3名を派遣し、4審とスコア担当2名の6名で担当する。
- 2) 主審は連盟が準備する電子ホイッスルを使用する。
- 3) 審判の服装については、短パン、短パン+スパッツ等は禁止する。
指導者(監督・コーチ)が審判を行う場合、ユニフォームの上着を脱いででの対応とする。
- 4) 指導者(監督・コーチ)を含む大人は運動しやすい服装とし、時計や装飾貴金属などはケガ防止のため身に付けない。
審判と同様に短パン、短パン+スパッツ等は禁止する。
- 5) 靴はスニーカーやアップシューズとし、大人用スパイクシューズの使用は禁止とする。

以上